

会 議 録

会議の名称	平成22年度第3回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成22年7月3日(土) 午前9時30分～12時20分
開催場所	教育委員会・会議室、中央図書館・視聴覚ホール
出席者	岸 信次委員、中澤佳珠代委員、吉崎徹委員、前田憲之委員、川崎仁委員、西山ひろみ委員、高野昂子委員、森本 扶委員 事務局(生涯学習課長、佐藤主査)
欠席者	富沢 明委員、羽石貴裕委員
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 報告及び連絡事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成22年度入間地区社会教育協議会 第2回社会教育委員部会 (2) 平成22年度富士見市人権教育推進協議会・総会 (3) 第2次生涯学習推進基本計画 地域懇談会 (4) その他 ①地域や所属団体などについての情報交換 ②その他 2. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習情報のあり方について <ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議 ・その他 3. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会議の開催について
会議資料	<ol style="list-style-type: none"> ①公民館等だより(7・8月合併号) ②富士見市公民館運営審議会答申
会議録確認	岸 信次委員

会 議 内 容 (要点記録)

○議長あいさつ

1. 報告及び連絡事項

(1) 平成22年度入間地区社会教育協議会第2回社会教育委員部会

(7月7日(水)午後2時～ 狭山市中央公民館)

⇒出席委員の確認を行う。

(2) 平成22年度富士見市人権教育推進協議会・総会

(6月23日(水)午後3時～ 総会 中央図書館視聴覚ホール)

⇒出席委員より資料に基づき報告。

(3) 第2次生涯学習推進基本計画 地域懇談会

①6月22日(火)午前10時～正午 ふじみ野交流センター

②6月26日(土)午前10時～正午 鶴瀬西交流センター

③6月28日(月)午前10時～正午 水谷公民館

④6月30日(水)午後7時～9時 南畑公民館

(事務局) 市民懇談会委員の主催で行われた。参加人数はトータルで53人。

(委員) 各種審議会などを出している答申などはこの計画にどう活かされていくのか。

(事務局) 委員の皆さんには、情報として提供して活かしていくようにしたい。

(委員) 懇談会では、富士見市社会教育の歴史を感じた。いまの社会の変化に応じて変わっていく方向性を、公民館を中心に考えて行く。施設自体の意味を議論できれば生産的につながっていくと考えた。

(委員) 今回の懇談会では、内容がわかりにくかった。中身が見えるようにチラシに工夫がほしかった。

(委員) 団塊の世代の方が、会社を辞めてから地域とのつながりを作れるような事業も考えてほしい。

(4) その他(地域や所属団体などについての情報交換等)

①ゆかたざらい・文化協会(7月10日・鶴瀬コミュニティセンターホール実施)

(委員) 芸能部の事業として、各会の踊りの発表がある。ぜひ参加を。

②第50回社会教育研究全国集会(8月28日～30日・立正大学)

(事務局) 第50回の記念集会として開催される。希望の方は、資料があるので提供する。

③入間地区社会教育協議会への提出名簿について

(事務局) 名簿の利用内容を確認し、問題がないため提出した。

2. 協議事項

(1) 学習情報のあり方について

議長：協議事項に入ります。前回の会議については、「会議録」を送っている。前回は、主にグループの協議になった。事務局で、その結果をまとめているので、報告をお願いします。

事務局：前回の議論とそれ以前の会議内容から主な意見をまとめた。(資料を見ながら説明する。)

①グループごとの協議になったが、それぞれにテーマ(目標)を定めた。

Aグループは「市民が使いやすい情報とはどういう形か。Bグループは「情報に関心のない人をどう振り向かせるか」とした。

②前回出た主な提案と以前出された意見については、資料にまとめた。

前回までは、まだテーマなど整理されていないこともあると思うので、今回はそのことの整理も含め重ねて協議を進めることでお願いしたい。

議長：これから、グループごとの協議に入っていただきたい。

委員：協議に入る前に、グループごとのまとめ方や発表方法について、確認したい。意見として、グループごとに学習の成果物をいろんな伝えられる媒体にして、発表をしてはどうかと考える。どういう形態かは意見があると思うが、枚数は多くなくして、その中に絵とか、図などを非文字資料を含めたものを作れば、今の時代伝わりやすいのではないかと考える。

委員：今後、この意見を誰に伝えるかで形が変わってくる。意見を聞いて、みんなが納得してくれて、情報の発信の仕方が変わっていけるようなきっかけにしたい。

事務局：文章だけでなく、地図や現場の写真に提案を入れるなどしてまとめていく方法など考えられるが、そういうイメージを持ちながら話をすすめていくこととすることでよいか。

議長：議論についてはそういう方向で進めることにすると確認する。

～ここから、A・Bそれぞれのグループごとの協議に入ることとした。～

～約1時間グループごとに協議した。終了して、再集合し会議に入る。～

議長：これから、グループごとの報告をお願いします。

委員：Aグループでは、テーマは「市民が使いやすい情報の形を示す」を変えないで話し合うこととした。これまで提案など出された項目の中から「なぜなぜ分析」という手法で分析して、たどり着いた見解に基づき改善すすめていくこととした。そのなかで、公のもので一番大きな情報伝達方法は「広報ふじみ」であることから、そこから分析を進めた。

「広報」を見ている人の立場から見ると、まず目次はどうかみてみると、「字が小さい」「色が目立たない」から見にくい。ただ、目次の場所からも、どうしても内容が多く情報量も多いことから字が小さくなるのではないか。しかし、目次をみて、情報に対する興味を引くという点を考えると改善の余地がある。では、興味を引く目次とは、たとえば電車の吊り広告のようなものであればインパクトがあるが、それには専門家の力を必要とするのではないか。「広報」も職員が作っていて、それがベストと見ていると思うが、ほんとうに読んでいる

人の意見を反映したものになっているか検討も必要ではないかという意見があった。

また、どうしても部署ごとに事業を作っているのが、縦割りの問題があり、各地区で行われている行事の情報を見ることができるとは、それらが重なってしまったりしていることがあるので、内部での横のつながりが必要ではないかという意見も出た。

目次という点では、ホームページの目次が見やすいので、広報の目次に活かさないか。そうすることで、詳しい情報はホームページからということになる。このような読者への気遣いをするので、市民に「広報」への興味を持ってもらえるのではないかと考えた。

以上ここまでで議論は終了した。

委員：Bグループも、「情報に関心のない人をどう振り向かせるか」というテーマについて、引き続き協議した。

まず話題になったのは「掲示板」で、いろんな掲示板があるが、みんなに見られていない、また老朽化してなくなっていたりしているが、どういう機能を果たしているのか検討しながら設置を考えていく必要があるのではないか。また、人が集まるところに重点的に設置していくとすれば、公園などにはないのはどうなのか。掲示板の効率的・合理的設置とメンテナンスはどうあるべきかということがあげられた。

次に話題となったのは、いろんな情報は掲示板や施設にあるが、もっと効率的に取得するには、パソコンなどで学習情報自体が検索できるシステムを作ればいいのではないか。そこでは、催し物を検索できるし、団体・サークルの紹介ややっていることも検索できる仕組みを、分野別・地域別でできるようにすればいい。これらを行政が一手に受けていくのは大変なので、効率的な方法としては、各公民館などにあるパソコンサークルの学習活動に連動させる形でそういったものを作っていくことがいいのではないか。情報発信自体が学習活動の場になる、さらには表現の場になることになる。たとえば、前回の会議で出した、映像モニターに「こんなことをやりました情報」を流す。この情報も編集等でサークルが作り、そこにコンテストなどを交えていくようにして、情報発信をもっと市民の手、表現の場に考えていくのはどうだろうかという考えが出た。モニターはいま地デジ化で多くが処分される状況でもったいない。どうにかそれを使えないかという意見もあった。

委員：Bグループの続きとなるが、前回出た「駅を大事にしよう」という話しから、駅のマップを行政がマップを作ったと示すのではなくて、マップをいろんな観点から考え、子どもが作れば遊び場マップ、自分たちにはこんないいところがあるとか、文化活動している方にはこういう場所があり文化に接することができるとか、植物が好きな方には植物のマップとか、家族構成によっては興味のあるところが変わってくる。いろんなマップを市民の側から作っていくのもいいと意見が出た。

次に、市民の側から活動を考えると、情報とは違うかもしれないが、情報に関心のない人をどう振り向かせるかということから考えると、家族の中で一番

無関心な人はサラリーマンであるお父さんたちではないか。そういうお父さんたちが一番情報に関心を持つというきっかけは何かとなると、やはり家族のためというよりは自分にメリットがないと難しく、メリットがあれば情報を取ろうということに直結していく。こういうことをすすめている地域があることを委員から聞いた。これは小学校の空き教室を利用したことだが、本来はPTAの話の中で空き教室をどのように利用しようかというところから出てきた「おやじの会」の居場所、おとうさんや独身のサラリーマンの方など地域の方が空き教室を利用して、朝9時から夜9時まで使いたいように使えるというものである。ここにメリットを見つけるわけで、そこでは自分がある会社とは関係のない人間関係でき、そういう場所ができ、そこでは飲食ができるというすごく大きなポイントになる。そのなかで、それぞれの特技を伸ばしていくことができ、話しをしながらやれることが広がっていく。自分たちのために子どもたちのためになっていったというスペースがあったということで、そういう場が駅周辺に、本当にお父さんたちの活動できる場所があるといいなという話になった。

一番振り向かない人が振り向くということはなんらかの情報があるよといっても、そこで手に取らないで素通りしてしまう。モニターがあっても素通りする。モニターがどういうところにあれば目や顔を振り向けるかというところ、そこにメリットや空間があり、そこにモニターがあれば情報があればつながるかもしれない。やはり、人が集まるところに情報がついてあればつながる、そういう話があった。

以上で議論は終了した。

議長：2つのグループの報告が終わりましたが、質問などあれば出してください。

委員：昔、人が集まるところは、囲炉裏だった。ある地域で、廃村などにみんなで小屋を建て、囲炉裏を作り、通りがかりの人が自由に入れ、持ち寄ったものを焼いたりして食べられるようにし、さらにおしゃべりができるようにした場所を作ったら、村の人ではないが旅人になつかしいスペースになった。そこには人が集まり、濃密な情報交換の場所になった。

委員：場所があれば、自然と情報交換できていくところがあるのではないか。

議長：本日はここまでとし、次回も、グループごとに協議をすすめることとする。

※次回会議日程について

9月4日（土）午前9時30分からを予定。

（閉会）